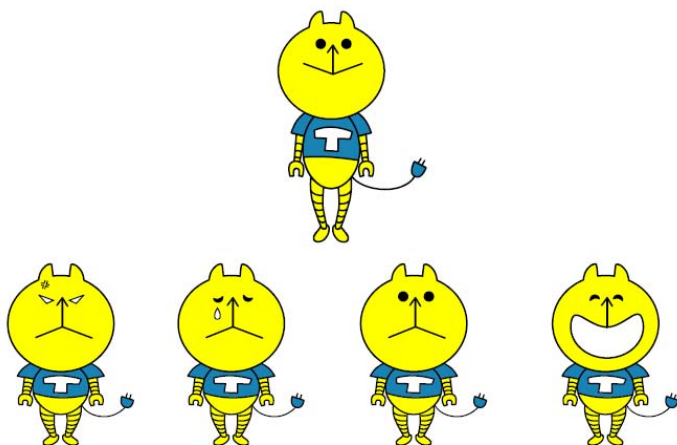


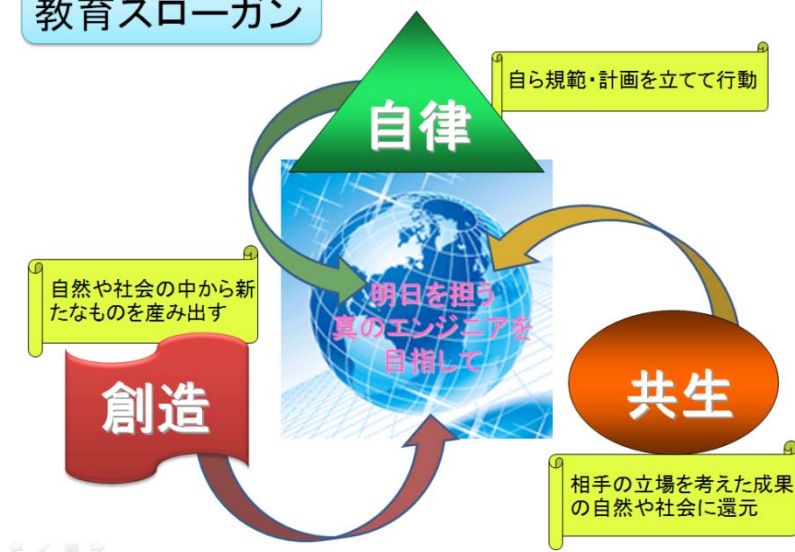
津山高専の勉強法

(平成 22 年度版)

— 標準的授業モデルと授業の受け方,
そして,
それに対応した自宅学習法マニュアル —

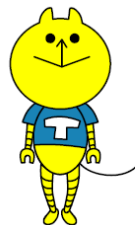


津山高専の 教育スローガン



津山高専の“わかる授業”のとりくみについて

津山高専では、みなさんに“分かる授業”を展開するために、標準的な授業モデルというものを作っています。授業によっては、項目の一部が変更されたり、この方法で教えられない場合もありますが、その場合は説明があります。このマニュアルを参考に、津山高専の授業にどう臨むか、自宅でのどのような方法で予習復習をすればよいのか等に役立ててください。



1. 標準的授業モデル

標準的授業の12項目

- (1) 年間を通しての授業の目的がしっかりしている。
(各授業で、どういう基礎を学び、どういうこと(どういう問題)が解けるようになるのかが提示されます。)
- (2) 毎回の授業において、その目的(ポイント)が明確に述べられる。(以後、この目的を”今日のテーマ”と呼ぶことにする。)
(各授業において、具体的にどういう問題が解けるようになるかが、はっきり示されることを意味します。)
- (3) “今日のテーマ”達成のための方法が示される。
(問題解決のための標準的で具体的なやり方を教えます。)
- (4) なぜ、そのやり方がよいのかが示され、そのことについて考える時間が与えられる。
(ただ単にやり方を学ぶのではなく、そのやり方のどういう点が特徴的で有効的なのかをじっくりと考えさせます。)



- (5) **体調不良の学生には、やる気を奮起させ、集中力が継続できる工夫がある。**

(学生が、授業中に集中力が切れて、眠くなったり、他のことを考えたりする症状があらわれたとき、ただ単に注意するのではなく、その学生に応じた”今日のテーマ”の適切な変更を与える等の工夫により、集中力のスイッチを再度入れます。)

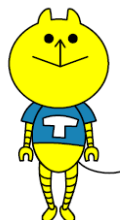
- (6) **授業の終わりに、”今日のテーマ”を確実に達成するための問題演習がある。**

(その授業の”今日のテーマ”が理解されたかを確認します。その際に友人たちとの教えあいを尊重し、チームワークの力により、個々人の知識を高めることを目指します。このような協同的な参加型授業から、「仲間と協力して何かを生み出す」という工学的な勘が磨かれます。)

- (7) **その授業の”今日のテーマ”を自宅学習で再チェックするための課題が与えられる。**

- (8) **分かり難い個所に対しての個別対応がある。**

(授業中の言葉使いで、人によっては微妙に分かり難い表現等があるかもしれません。その場合にはオフィスアワー等を使って、個々人の理解に合わせた方法で指導しますので、研究室を訪ねてください。)



(9) より学びたいと思う学生には、さらに進んだ教材を紹介する。

(図書館に、教科推薦図書のコーナーを設けて、自主学習の環境を整えます。それを授業の中で紹介し、図書館との連携を図ります。)

(10) 年度途中の適切な時期に、“今日のテーマ”がどれ程達成されているかのチェック(試験)がある。

(試験に関するチェックシート等により試験勉強を行い、“今日のテーマ”を再確認し、基礎力を定着させます。)

(11) 試験終了後、試験内容の解説とチェックシート等を使って目標の達成度をチェックする。

(試験終了後、試験内容の解説を聞き、試験に関するチェックシート等を使って、どういう改善点が必要かを反省できます。)

(12) 学生が弱点を克服するための方策が与えられる。

(成績評価と反省を元に、どのような勉強をすべきかといった勉強の学習指導と演習指導を行い、弱点を克服できるようにします。)



2. 津山高専における授業の受け方9項目

1. 授業前の起立，礼をしっかりやって心のスイッチを入れる。
2. その時間の”今日のテーマ”をチェックする。
もし，”今日のテーマ”が提示されなかったら，「今日の目的は何でしょうか？」という質問をする。
3. “今日のテーマ”の意味が理解できないときは質問する。
（”今日のテーマ”の意味が理解できない状態で授業を受けると途中で授業の意味を見失うので，これは一番重要な行動である。）
4. 授業において，どの部分が”今日のテーマ”を達成するための主たる方法であるかを把握する。
5. やり方がわからなかったら，納得できるまでしつこく質問する。
6. 眠気を感じたら，手を挙げる。
7. ノートへのメモのスピードより，教員の解説のスピードが速かった場合は，少しスピードを落とすことをお願いする。スピードが速いと感じることは授業内容が理解できないということに直結する危険信号である。
8. 演習問題はまず自分で考え，その後，仲間と積極的に議論する。
仲間に教えたり教わったりすることで，自分だけで考える以上の知識が身に付くからである。
9. 授業内容に関する関連図書を聞きだす。



3. 津山高専における“自宅学習法”マニュアル

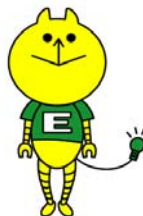
【1】年度はじめに行うこと。

1. 日曜日等の休みの日を利用して、シラバスに目を通し、各科目を1年間勉強することで、自分はどのような知識が身に着くのかをイメージする。
2. 時間割をみて、毎日の自宅学習時間の予定表をたてる。
3. 1年間の自分なりの目標と計画をたてる。

【2】毎日の授業準備の方法

《復習法》

1. 今日の授業を、ノートをみて振り返る。特にどういう点がポイントであったか、すなわち”今日のテーマ”はどういったものであったかを確認する。
2. “今日のテーマ”を達成するための方法を、ノートや教科書を見ないで、思い返してみる。
3. “今日のテーマ”が理解でき、それを達成するための方法が身に付いているかをチェックする。たとえば、演習で扱った問題を、もう一度自力で解いてみる。
4. もし、十分に考えてみても、理解できないことや、解けない問題があったときは、そのどういう点が理解できないかを整理して、次の日に、友人や担当教員に聞くための準備をする。



《予習法》

5. 翌日の授業時間割をチェックする。
6. 翌日の授業予定のところに対応する教科書の内容に目を通す（教科書を読む）。
7. 場合によってはわからない語句をチェックし、自分なりに調べる。
8. どういう点が”今日のテーマ”になるのかを自分なりに考える。

【3】レポートの書き方

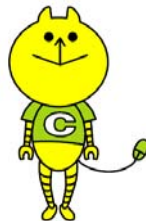
1. 与えられたレポート課題の目的は、何であったのかを整理する。すなわち、この課題によって、自分はどのようなことを身につけようとしているのかを考える。
2. 自分のレポートの構想を考える。最初にどういうことを書き、次にそれをどう展開していき、最後にどのようにまとめるかを、考える。
3. 必要な資料（データ）を探す。その際、どうすれば自分が必要とする資料が見つかるかを考える。特に、図書館は利用価値が高いので積極的に利用する。
4. データの取り方について考える。データの取り方の長所と短所を理解する。
5. 収集した資料から、レポートに必要なものを抜き出し整理する。



6. レポートの題名とセクションの小見出しを考え、メモ帳に列挙する。
7. セクションの内容を整理し書き上げる。
 - (a) セクションの目的は何か。
 - (b) 取り上げた資料やデータはどういった意味で適切なものか。
 - (c) 取り上げた資料やデータの長所や欠点は何か。
 - (d) 何がいえたか。
8. レポートを一通り書き終わったら、最初から文章表現や誤字脱字等を意識しながら、一字一句見落とさないように気を配って見直す。
9. レポートの訂正を行う。
10. レポートを仕上げ、提出できる状態にする。
11. 教員からチェックされたレポートが返却され、再提出を求められた場合は、教員からの指示事項を十分理解した後、再度訂正したレポートを作成し提出する。

【4】定期試験前の勉強法

1. 定期試験の1週間前になったら、各教科のノートの整理に取り掛かる。
2. 担当教員から配布されたチェックシートを確認する。
3. 各”今日のテーマ”を整理し、次の定期試験でどのような点がチェックされるのかを理解する。



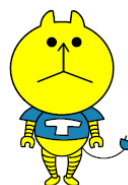
4. 各”今日のテーマ”に対応した問題を実際に解いて、解決のための方法が身についているのかを一通りチェックする。
5. 身に付いていない個所については、ノートまたは教科書を見て、どういう点が自分の弱点であるのかを把握する。
6. 弱点部分を意識しながら、解答付きの問題でチェックする。
7. 試験範囲の”今日のテーマ”の達成の方法をまとめたノート（試験対策用ノート）を作る。
8. 試験前日に再度、試験対策用ノートを見直し、もう一度問題を解きなおす。
9. 前日は早く寝る。

【5】定期試験後にやること

採点された答案をもらったら、各設問がどの”今日のテーマ”に対応していたかをチェックする。間違えた点については、どういう誤解があったのかを認識し、反省する。なぜ間違えてしまったのかがわからない場合や、勉強法がわからない場合等は、仲間や担当教員に相談に行く。

【6】日常生活の中で

1. 12時には寝る（夜更かしはしない）。
2. 朝食をとる。



メモ

* 本紙で使用されているキャラクターは、平成 21 年度に行われた“津山高専ゆるキャラコンテスト”で第 1 位に選ばれたオリジナル作品です。

